

上湧別中学校2年 牧村 航太郎

早いようで、滞在期間の半分が過ぎ、最初は長いように感じていた三か月間も短く感じます。ダーフィールドは学校の周りは住宅とお店などがありますが、少し離れると、牧場が広がっています。家と家の距離がすごく離れています。高い生垣のような木が多くあり、独特の景観を生み出しています。

ホストファミリーは買い物が好きではないので、よく歩きに出かけます。キャッスルヒルという不思議な形の岩がある所へ行ったり、クライストチャーチに歩きに行きます。クライストチャーチの昔の街並みが再現されている商店街は、異国情緒をすごく感じました。2011年に起こった地震の慰靈碑や、地震によって壊れた大聖堂も見ました。慰靈碑や、大聖堂等を見ると、地震の被害の大きさが伝わってきます。ホストファミリーがアウトドアが好きなこともあり、ニュージーランドの自然や景観を知ることができます。オランパークという動物園にも行きました。ホストファミリーはすごく動物好きです。家でもハスキー犬や猫を飼っています。とても広く、動物が檻に入れられているという感じは全くしません。ホストファーザーは、毎日スキー場の天気をチェックしているので、僕が行く行かないに関わらず、天気が悪ければ教えてくれます。ホストファミリーの食事は少しおもしろく、平日は曜日によって夕食の献立が決まっています。なんだか給食みたいですね。ホストファミリーは、僕を兄弟の一人として扱ってくれるので、嬉しいです。

僕は、セルウィン町内のダーフィールドハイスクールに通っています。生徒は自分のパソコンやスマートフォンを学校に持ってきて、毎朝、校長先生から送信される電子メールを確認しています。また、授業内でもパソコンを使う機会が多いです。僕の学年は「Year 10」で日本でいう中学二年生あたりです。授業は、E S O L（英語が第二言語の人向けの授業）や、日本語、数学、体育と選択教科二つです。選択教科の種類はとても多く、僕は演劇と木工を選択しています。演劇はとても楽しく、例えるならコントのようなことをやっています。台本が無く、即興で演じるので、知っている英語を駆使して頑張っています。先生に「動きや口調がすごく良いね！」と言われたときはとてもうれしかったです。

ニュージーランドと日本にはスポーツにも違いがあります。ラグビーやクリケット、ネットボール等が盛んなことは知られているかもしれません、身近なスポーツにも日本と違いがあります。スカッシュが盛んで、ダーフィールドにもスカッシュクラブがあり、僕もホストファミリーと一緒に行ったことがあります。とても難しいものでしたが、楽しかったです。その他にも、サッカーやフィールドホッケーなどが盛んです。週末には、ホストファーザーのハイデンのサッカーをよく見に行きます。また、野球やバレーボール、バスケットボールといった球技はあまり盛んで無いように感じました。野球場はありませんし、体育館はありますが、小さく、あまり多くはありません。スキー場も、街から遠い上、ナイターがないため、日本のように学校や仕事の後にスキーをすることもできないので、ス

キーは観光で楽しむものという存在な気がします。スポーツの違いは僕にとって非常に驚きました。

この地に来てから、日本との結びつきをしばしば感じます。カンタベリー地方で日本語を学ぶ「Year 10」の生徒が参加するお祭りでは、日本人留学生が、カンタベリーの生徒に日本の文化について教えました。参加している生徒は非常に多く、日本語教育の盛んさに驚きました。僕は、折り紙を教えました。教えるのは難しく、日本語祭りなので、日本語も使いながらの説明が良かったのですが、慣れない英語で説明するので精一杯。日本語を使うためにも、英語の必要性を感じました。

ニュージーランドには、多くの国の人人がいて、パスポートカントリーという言葉を使うこともあります。日本とは違い、移民の国ということがよく分かります。僕のホストペアレンツもオランダの方です。学校には、日本語やフランス語、先住民族マオリの言語の授業もあります。マオリ語の授業は一度だけ受けたことがあります。父や母、兄弟、祖父母の言い方を習いましたが、とても複雑で難しかったです。実に多様な文化がある国だと感じています。

残りはもうわずかですが、慣れてきて、少し過ごし方がわかったような気がします。まだ滞在期間は一か月程あるので、ダーフィールドハイスクールの生徒のみなさんと話したり、ホストファミリーと過ごす中で、ダーフィールドやセルウィン、ニュージーランドのことを学び、湧別や日本のことについて伝えていきたいと思います。



愛猫の”シャドー”と



ハイデンとクライストチャーチで

上湧別中学校 2年 牧村 航太郎

湧別を発って3か月が経ちました。ダーフィールドにいたのは約3か月ですが、5月に湧別に来たハイデンとは、およそ5か月間、同じ家で生活を送っていました。ホストファミリーとの生活は、来て数週間は文化の違いに戸惑いつつも、ホストファミリーと話したり、時間を過ごしていく中で、受け止めしていくことができました。

このあたりは本当に自然が豊かです。キャッスルヒルという岩が多くある名所から少し車で走った所にある、ヘリコプターヒルという所へ軽登山へ行ってきました。その翌日には、ダーフィールド市街のすぐ近くにある林へ、ハイデンと自転車で行きました。コールゲートにある丘の森の中にはとても長いまっすぐな道があります。色々なところに、遊歩道のような所が整備されており、誰でも気軽に自然を楽しむことができるようになっています。どこも、すごく簡素な整備ではありますが、楽しむには十分で、逆にいえばありのままの自然を感じることができます。

ダーフィールドハイスクールでの生活は、すべてが新鮮でした。学校が始まって数週間は、まさに右も左もわからない状況で、とても大きな敷地内を迷うこともしばしばありました。日本の学校のように、四角い建物が並んでいるわけではなく、とても入り組んでいます。学校について、僕が特に興味深いと思った2つのことを紹介します。

1つ目は、パソコンやスマートフォンの活用です。文書のやり取りは、「メールかクラウドで共有！」という具合です。また、日本語の会話のテストのお手伝いをさせていただいたことがあったのですが、その際も、スマートフォンで撮影した動画を送信するという形で行いました。また、連絡やアンケート等も全て電子メールを通して行われます。日本の学校とは違い、一人ひとりが別々の時間割をもっています。毎朝、メールを確認し、自ら予定や、課題を確認しなければなりません。紙を介した情報伝達ではないので、手間も少なく、環境にも良さそうですが、生徒に自己管理を促すという狙いもあるかもしれません。

2つ目は、フォーマルというものです。これは参加できるのは学年の高い生徒のみですが、プレフォーマルというものは少し学年が低くても参加できます。僕もプレフォーマルに参加しましたが、とても楽しく、良いものでした。ステージにはDJがいて、派手な照明が会場を盛り上げてくれます。ぼくは、ここで多くの友達を作ることができました。プレフォーマルの運営は学年の高い生徒が行っていて、後輩にこうやって受け継いでいくのだと、しっかり仕組みができていることにはとても感心しました。

植樹もしました。植樹活動は、学校からあっせんがあり、ボランティアとして参加しました。植樹自体初めてでしたが、とても貴重な体験をすることができました。ここでの仕

出し弁当は、グルテンフリーやベジタリアンの方向けの食事が用意されており、しっかりと配慮がされていることは素晴らしいことだと思いました。

また、僕の大好きなスキーを通して様々な方々と交流することができました。その植樹の際も、「スキー場でみたよ!」と知らないお子さんに声をかけていただいたり、スキー大会に参加したりもしました。また、インターナショナルオフィスのデリックさん家族にマウントハットへ連れて行ってもらったりもしました。スキーは話の種にもなりますし、スキーをやっていて良かったなと思いました。

登校最終日は、2週間の休み前ということもあり、バスも学校もいつもとは違って少し静かでした。朝のホームルームの時間では、担任の先生がケーキを持ってきていてみんなで美味しく食べました。クラスのみんなから寄せ書きをもらったときはとてもうれしかったです。休み時間には、友達と連絡先の交換をしたり、お世話になった方に手紙とお土産を渡したりと、とても忙しく、ゆっくり話したりできなかったので、あと一日ほしかったです。また、日本語クラスの中で、湧別町に関してプレゼンテーションを行いました。とても、興味深く聞いてくださいり、日本と大きく違うと思ったことが、いくつかあるので紹介します。

1つは銃について。ホストファミリーと釣具店を訪れた際、その一角に銃の売り場がありました。厳重に管理されているわけでもなく、壁にかかっているだけで、ぼくはただただ唖然でした。僕のホストファーザーも、2丁持っていて、小動物の駆除に使うそうです。

2つ目はガソリンについて。ホストファミリーは、ヘーゼルナッツ栽培をしてるので、農機具用にガソリンを買うというので、金属製の缶を使うのだろうと思っていたら、プラスチック製の灯油ボトルのようなものだったので驚きました。自分で、その携行缶に給油してもよいそうで、ホストファーザーは自分でガソリンを入れていました。

3つ目はゴミについてです。生ごみは、鶏の餌にするので、生ごみ用のゴミ箱のことを「チキンビン」といいます。また、ある程度郊外であれば、ゴミを燃やしてもよいようで、週末にホストファーザーと、木の枝や、古着等を燃やしたことありました。日本であれば、あれだけの量を燃やせば消防が来ると思いますし、ゴミを勝手に燃やしてはいけないので、とても驚きました。包装用プラスチック等は、リサイクルはしていませんが、僕のホストファミリーは再利用しています。また、街の至る所に、ゴミ箱が設置されています。ポイ捨ての防止にはなりそうですが、防犯的にはどうなのかと疑問に思います。

4つ目は家についてです。薪ストーブが主流です。僕のホストハウスでは、薪ストーブの熱を利用し、お湯を沸かしています。また、家の断熱性・気密性が、日本の家と比べて悪いように思います。窓枠は木製で、断熱材もグラスウールがまだ主流なようです。薪ストーブなので気密性が高すぎてもだめなわけですが、断熱されないので薪をたくさん使っ

て家を温めるのは、あまり環境に良いとは思ひませんでした。建具の質も悪く、ドアの開閉は最後まで慣れませんでした。

この3か月間は、僕にとって交流を始めるとても素晴らしいきっかけになったと感じています。実際に友好都市のセルウィン町を訪れて、さらに興味もわきましたし、湧別にむけてセルウィン町やダーフィールドのことについて紹介できるようになりました。ダーフィールドはとてものどかで、少し車で走れば、スキーもできますし、大自然も楽しめます。街並みも、春には桜が満開でとてもきれいですし、オシャレなパン屋さんもあります。短期間でも楽しめる場所だと思いますので、町の交流事業に限らず、個人的な交流にも広がっていくように、これから、自分なりにできる事をしていけたらと考えています。

最後になりますが、この3か月間をしっかりと良いものにできたのも、たくさんの人々の助けがあったからです。ホストファミリー、ダーフィールドハイスクールの友達、インターナショナルオフィスのみなさん、日本語クラスのみなさん、役場のみなさん本当に感謝しています。

スーパーでおすすめのパンを教えてくれたおじさんにも「おいしかったです」と一言伝えたいです。また、父が二週間、滞在していたヒューソン夫妻は本当に優しかったです。本当にありがとうございました。



ホストファミリーとハイキング



帰国の日、ホストファミリーと